利用者の声が充実生む

介護保険で日本を変える◀シンポジウム

介護保険では、制度づくりのための審議会のメンバーとしてかかわってきた。いろいろ問題はあるが、延期なんてとんでもない。

議論の場にいて、介護保険にはいろいろな対立軸があるが、その底にあるのは「家族観の違い」だとわかった。家族での介護が、日本の一番いい部分を支えているという「伝統派」と、高齢化が家族の形を大きく変えたことを認識し、新しいシステムをつくろうという「現状認識派」。家族という視点で分ければ、結局その二つだった。

今、日本をはじめ先進国の人口構造は、細長く縦に伸びて、しりすぼまりになり、非常に不安定になっている。不安定な人口ピラミッドを支えようと思ったら、新たな連帯のシステムや価値観という、社会的発明に汗を流し、その創造に努めなければならない。

そこで「感情より勘定」。感情は大事だが、愛情も憎悪も喜びも悲しみも含めて、余りにも過大な感情の累積は、未来を閉ざし、平和を築く礎には決してならない。

歴史を検証し、過去との違い、現実を分析し、正確な等身大の事実に立って、未来を構築するのは優れて人間的な精神の営みだ。それを私は「勘定」と呼んでいる。

私ども「高齢社会をよくする女性の会」の一九九七年の調査では、在宅介護の長期化、重度化が進んでいるとともに、「重層化」と呼べる複数の人を介護している人が、なんと五人に一人以上あった。二十代、三十代の介護者も少しずつ増え始めている。

介護の負担を家族にのみ預けたときの悪影響は、すでに次の世代に及び、私が「潜在的介護シングル」と呼ぶその次の世代の結婚率を引き下げ、少子化にはね返っている。

樋口　恵子さん　将来響く　家族への重圧

私の看護のテーマは、高齢患者を縛ったり、薬でおとなしくさせたりする「抑制」をゼロにすること。しかし、抑制は老人病院をはじめ、日本の高齢者施設では、まだ当たり前に見られる。

抑制が現場にはびこった理由の最たるものは「医療のおごり」だ。現代の医学の進歩は目覚ましいが、その半面、スタッフは一般に情報の伝わらない密室で甘やかされている。「みるのは大変だから抑制しよう」と平気で言えるのだ。

やっと介護保険法の運営基準の中に「抑制禁止」の規定ができた。老人病院や老人保健施設、特別養護老人ホーム、痴ほう性老人のための同様の病棟では、今までのような抑制をしてはいけないわけだ。基準どおりのケアを現場がすれば、高齢者施設での日本のお年寄りの姿は大きく変わる。

抑制のない状況を実現するには、経験から、次の三点が大切だ。

まず、食事や水分を口からとれるようにして点滴を減らすなど、ケアを徹底し、工夫に取り組む。それだけで抑制の八五%が簡単にやめられる。これには、ケアに理解が少ない医師に意識を変えてもらわなくては進まない面もある。

次に、もう後戻りはできないと現場のスタッフが腹をくくること。抑制禁止の基準には、例外規定があり、現場が安易に解釈すると、今までと変わらない危険性もあるが、スタッフが「抑制は例外中の例外だけ」という覚悟を持てば、縛る行為はどんどんなくなる。

三つ目は利用者とのコミュニケーション、または利用者のケアへの参加、これが大切だ。皆で一緒に考え、参加するのでなければ納得のいくケアはできない。

田中とも江さん　抑制に「医療のおごり」

デンマークでは、介護・家事サービスの契約に同行しました。訪問看護婦さんがお年寄りの宅へ行って、話し合いで決めていました。

トイレ、シャワー、着がえなど項目ごとに、本人ができることとできないことをチェックします。トイレですと、ズボンをおろす時にだけ介助、あとは自分でできる、という風に。訪ねた男性は背中のシャワーだけを頼みました。契約書の目的の項には、「何ができないかではなく、できることに焦点をあわせる。目的は住民が自分で問題を解決するために援助することだ」とあります。

生活の援助の項には、コーヒーを一緒に飲む、話を聞く、散歩などもあり、当日、本人の希望で変えることもできる。この柔軟性はいいなと思いました。

ヘルパーにとって、お年寄りの家は職場。その職場が安全か提供側が点検します。おふろ場が滑りやすくないか、介助できる広さか、ベッドの高さは適当か、手の荒れない洗剤か。働く側が気持ちよくなければ、介護される側も幸せではない。この視点は日本でも大切だと感じました。

ヘルパーさんの仕事ぶりをみて痛感したのは、「待つ」ことの大切さです。たとえばある八十歳代の女性の場合は、トイレの介助は下着をおろすだけ。後は居間でいすに座って待つ。

全部介助した方が早いのではと思ねると、「確かにその方が簡単。でも、そんなことしたら、その人の力がどんどん落ちて体が弱って、早く病院に行くことになるかもしれない。するとお金がかかる。経済的にも待つ方がいいわ」と。着替えの介助は、ストッキングをはく時だけでした。

ヘルパーさんたちの深夜の巡回に同行しましたが、この待つ姿勢は変わらず、せかさない。手を出さずに見守る。これはプロの仕事の神髄だと思います。

この町のヘルパーは常勤換算で六十人。日本の人口に換算すると、六十万人以上。まず日本は人手を培やさねばと思いますが、日本から研修に来た介護福祉士の女性が「数だけじゃない。私たち、何から何までするのがサービスだと思って一生懸命やり過ぎていた。そこを変えないと人手を倍にしても変わらない」としみじみ言われたのが印象的でした。

ヘルパーの教育は九〇年に改革され、教育期間が七週間から一年間になり社会保健介護助手の資格ができました。さらに二年半、計二年半学ぶ社会保健介護士の資格も作りました。介護は公が担うので、介護助手は市町村に、介護士は県に雇われ、給料を得て勉強する。授業の三分の二は現場実習でした。

最も心動かされたのは、在宅でのみとり支援制度です。家族や近しい人々が仕事を休んで自宅でみとる場合、収入を補償する制度。ヘルパーなどのサービスはそれまで通りに続け、家族は精神的な支えとして心行くまで付き添い、深い時間を過ごす。人間的な発想ができた仕組みですが、経済的にも病院に入院するより安いし、合理的です。これこそ人間のための制度だなと痛感した。

では介護にいくらかけているか。国内総生産（GDP）の二%余り。三十人の人に高い税について聞くと、「安くはない。でも、戻ってくるからいい」がほとんどでした。

基調報告　せかさずに見守るヘルパー　在宅のみとりに収入補償も　生井久美子記者

精神主義の表彰は疑問

樋口　恵子さん
評論家

時事通信社などをへて女性、高齢化社会問題などの評論で活躍。今年5月、3年余り重い要介護状態にあったパートナーを亡くした。「高齢社会をよくする女性の会」代表。67歳。

「抑圧」

――病院という立場からみた家庭介護の現状は？

田中　重い痴ほうの場合は、家族がくたびれてしまって、結局、一番いいお母さん、お父さんのイメージがなくなり、憎しみを持ったり、最後までかわれなくなったりしてしまう。

――あまり介護を家族に頼ると、愛情も薄れてしまうということですか。

田中　そうです。

熊坂　市長に就任する前、十年間開業医をやって、地域で介護地獄というか、そういう状態を体験した。これから介護保険が始まるわけだが、介護の社会化が必要だと強く感じている。

――オーストラリアでは、家族による介護はどうとらえられているのか。

ハウ　個人的な経験から言うと、私の父親は八十六歳まで生きて末娘の私が世話をしたが、おもしろい人生を生きた人だったから楽しかったし、私は仕事を続けることができた。兄も姉も遠くに住んでいて介護できなかった。

オーストラリアでもやはりかつてみんなが親の面倒をみたわけだが、昔はそれほど長生きしなかった。最近、年老いた後、親の介護をすることが非常に大きな重荷になり、雑誌にも取り上げられている。

――オーストラリアのマッカラム教授から、「日本では自宅にいるお年寄りへの虐待はあるか」という質問がきています。

生井　連合が、自宅で家族を介護している人を対象に「虐待をしたことがある」「やっていない」と答えた方は全体の半分ほど。それが日本の実情ではないか。取材していて、家族介護というのが本当にできれば、それはすばらしいだろうと思う。でも、現実には、家族だけでは難しく、悲しいことがいっぱい起きている。

現金給付当面は避けて

池田　省三さん
龍谷大助教授

自治労中央本部書記局から地方自治総合研究所に出向し、事務局長、政策研究部長を歴任。「介護の社会化を進める一万人市民委員会」の設立に加わり、運営委員。52歳。

現金給付

――介護保険法では、家族への現金給付はしないことが決まっているが、その網をくぐる方法も提案されている。

池田　現金給付には三つの形がある。ひとつは、介護する家族に慰労金を渡す方式で、これは介護保険が社会保険である限り、できない。二つ目は、介護される本人に現金を渡して、それで家族、知人、友人の介護を買うという形。最後に、介護している家族を地方公務員の非常勤職員に採用し、ヘルパーの研修を行い、非常勤職の給料を払うというやり方で、この案が今、出てきている。

介護保険の出発点としては、いかなる形でも現金給付というのは避けたほうがいい。五年後、サービスが十分に行き渡り始めた時点で、検討してはどうか。

樋口　私は審議会で悩まれながら、現金給付に反対したが、いまの政治状況では現金給付案が通る可能性がある。そうなったら、介護保険の精神は半分死ぬと思っている。

私たちは一九九六年に「家族介護者表彰に関する全国調査」を行ったが、こういう制度がある自治体が三一%あった。表彰の条件というと、「一年以上ないし五年以上」など長期にわたり継続していることや、「孝森賞」という名前をつけて、夫婦はだめで、嫁か息子か娘でないと対象にならない、という地域があった。表彰状の「寝食を忘れ」「昼夜を分かたず」「おのれをかえりみず…」といった文面を読むと、これを実践していたら生きていられるわけがない。

――介護地獄は、病院や施設内にもある。「抑制禁止」は無理という人もいるが。

田中　問題行動の対処の仕方を患者さんごとに作り上げて工夫するとか、医師がきちんと本当の意味でのかかわりをするということで十分可能だ。これはやる気さえあればできる。

――看護協会の方からメモをいただいた。縛るための時間をケアに回したら、お年寄りの状況がよくなった、と。

ハウ　オーストラリアでは、車いすやベッドに縛られているのではないが、薬で抑制されることがある。使う薬剤が非常に多いセンターは、ケアの質があまりいいとは考えられない。

――抑制を外すと、医療現場はすごく忙しくなるものなのか。

生井　福岡で外した病院を幾つか取材したが、「えっ」と言うぐらい簡単というか、縛らなくても大丈夫だという方が何人もいらっしゃった。

――ドイツでも「縛る」場合は、裁判官の許可を得なければいけない。「抑制死」という言葉を初めて聞いた方も多いと思うが、縛られることによって誇りを失い、体がだめになり、随分たくさんの方が亡くなっているのではないか。

21 朝日新聞フォーラム

やる気次第　抑制外せる

田中とも江さん
上川病院総婦長

抑制廃止研究所副代表。上川病院（東京都八王子市）で86年から縛らない看護に取り組み昨年秋の「抑制廃止福岡宣言」や今年6月の「九州宣言」のきっかけをつくる。50歳。

要介護度　身体の状態

			ビ一費用サス(月額)	自己負担額(月額)
要支援		日常生活の能力は基本的にあるが、入浴、衣服の着脱などで週数回の介護が必要	6万円	6千円
在宅介護	Ⅰ軽度	立ち上がりや歩行が不安定。衣服着脱、掃除などで毎日1回の介護が必要	17万円	1万7千円
	Ⅱ中度	起き上がりも自力では困難。食事、排せつ、入浴などで毎日1回の介護が必要	20万円	2万円
	Ⅲ重度	起き上がり、寝返りが自力でできない。毎日2回の介護が必要	26万円	2万6千円
	Ⅳ最重度	日常生活の能力はかなり低下。意思疎通ができない人も。1日3～4回の介護が必要	31万円	3万1千円
	Ⅴ最重度	生活全般にわたり部分的または全面的な介護に頼る。1日5回以上の介護が必要	35万円	3万5千円

（厚生省の試算をもとに作成）

▶報告から

贈り贈られそこに黄桜
皆様にありがとうキャンペーン

蔵元でしか飲めない京都地ビール
黄桜麦酒3兄弟プレゼント

今、お中元用に「蔵元直送」ギフトセットをご用命いただいたご本人様および贈り先様合計1,000名様に、抽選で、京都地ビール「黄桜麦酒」（●スペシャルビター●アルトセブン●スーパーゴールド3種セット各700㎖詰）をプレゼントいたします。

■お申し込み方法／「蔵元直送」ギフトセットをご用命いただくだけでご応募資格が得られます。
■応募締切り／8月4日(水)
■抽選発表／賞品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

黄桜
吟醸 生原酒
限定蔵出

製造方法	吟醸
アルコール度数	18.3度(予定)
原材料名	米・米麹 醸造アルコール
使用酵母	KZ 09
日本酒度	+2(予定)
酸度	1.6(予定)
アミノ酸度	1.4(予定)
原料米品種	吟おうみ 80% 五百万石 20%
精米歩合	55%以下
特長	フルーティーな香りでさっぱりとした味わい、原酒ならではの深いコク。
お召し上がり方	冷やして、またはロックでお召し上がりください。

甘辛・濃淡度(予定)
濃 辛 甘 淡
濃醇辛口

キリトリ線
※太枠内の必要事項をご記入ください。

黄桜「吟醸生原酒」蔵元直送便お申込書　お申込日 平成11年　月　日

お届け先	ご住所（〒　）
	フリガナ ご氏名　☎　（　）
ご依頼主	ご住所（〒　）
	フリガナ ご氏名　☎　（　）
720㎖詰3本入 5,000円 (GNG-3A)	セット
720㎖詰2本入 3,500円 (GNG-2A)	セット
ご用途(のし)	1.不要 2.無地 3.お中元 4.粗品 5.暑中見舞 6.その他（　）
酒販店名・住所・☎	卸店名

〈お問い合わせ〉黄桜酒造(株)営業推進部 TEL.075-611-8115 ※表示価格は消費税を含まないメーカー希望小売価格です。

保冷パックで蔵元から直送
黄桜「吟醸生原酒」は加熱処理をしていない生酒ですので新鮮な味わいそのままをお楽しみ頂けるよう、保冷パックに入れて蔵元から直送いたします。到着後は冷蔵庫で保存し、**冷やして、またはロックでお召し上がりください。**

ご予約・お申込みはお早めに
限定販売ですので予定数に達し次第、ご予約を締め切らせていただきます。あしからずご了承ください。

お申込締切日 8月4日(水)(電話受付)

限定発売・蔵元直送
黄桜吟醸生原酒
"旬の酒"の贈り物

清酒720㎖・2本セット詰 3,500円(送料込・税別)

清酒720㎖・3本セット詰 5,000円(送料込・税別)

ご配送承り区域
全国（ただし、離島へのお届けは、ご容赦願います。）送料は価格に含まれております。

お申込方法
お近くの酒販店・デパートにて取扱いをご確認のうえ、代金を添えて左のお申込書、又は当社指定のお申込書でお申込みください。商品は当社へお申込書到着後、約一週間程度でお届けいたします。（直接当社へのお申込みは受けつけておりません）